

令和元年度事業経過報告

社会福祉法人 蘇南会
ケアハウス光露館

【令和元年度 目標】

高齢者の独り暮らしや夫婦のみ世帯が急速に増えゆく現状により、ケアハウスとしての本来の姿
入居者の
「自立した高齢者を対象とする施設」という考えが大きく変化しようとしている昨今、入居者の
身体・認知機能レベル低下は顕著であり、認知症を有する入居者の割合が高まっている。
今春23年目を迎えるケアハウス光露館として“今すべきこと”“求められるニーズ”をし
っかりと
考える必要があり、高齢者(入居者)を取り巻く問題を明確にし対応する姿勢が望まれる。
入居者一人一人と向き合い、入居者の気持ちに寄り添い安心して満足いく生活を送ってい
ただけ
るような支援を提供する。その為に、この山都福祉村の特色を生かし、入居者の現状に合
った
介護支援を常に考え、各施設が一丸となって取り組むことが重要と考える。
又、働き方改革(労働者を守る視点)より、入居者の介護が重度化していく中での職員
にかかる
負担(抱える負担)にも目を向け、毎日の挨拶や会話からの信号を逃さず、職員を守る職
場を
目指す。

【目標に対しての実施経過報告】

(1) 入居者の人権を尊重し、自由でプライバシーが確保される安心した生活を援助して
いく。

➡入居者の思いに耳を傾け、それぞれの生活スタイルを尊重し、安心した生活が送
れるように
援助する事ができた。

(2) 管理栄養士による栄養管理を行い、委託業者(日清医療食品)により、入居者個々の健
康状態に合わせた食事を提供する。また、嗜好調査・食事検討会等でニーズを把握し、
季節感のあるバラエティーに富んだメニュー、適温での食事を提供する。食事の雰囲気
等にも配慮し特に毎月『楽しいランチ・感謝の日』を行ない、食事の楽しさを味わって
もらう。

➡食事検討会(3回/年)を行う事で、入居者の意見を直接、栄養士へ伝える事ができ
た。
又、バーベキューや楽しいランチを通して、“食に対する楽しさ”を実感して頂いた。

(3) 年間を通してクラブ活動やレクリエーション、ニーズに即した行事を計画する。福祉村各施設とのコミュニケーションを図り、入居者が生きがいを持てる生活が送れるよう支援していく。特にレクリエーションについては『体力増進』『介護予防』を重視して、個々の楽しみにつながる内容を計画的に推進する。また、必要に応じてニーズに合わせた外出行事を実施する。

➡文化祭では福祉村内各施設の作品見学や交流を行った。いろいろな方の作品に刺激を受け、

更なる活動意欲につなげる事が出来た。

朝の体操では、体力増進はもちろんのこと、“楽しさ”に重点を置き、毎回参加したくなるようなメニューを企画し実行することができた。

(4) 入居者の健康管理に配慮し、年一回の健康診断の実施や各医療機関受診等を援助する。また、介護予防に関する施策も取り入れていきながら、入居者の健康増進を図り、その予防や維持に努める。認知症の予防にも努め、その早期発見、受診等を支援する。

➡年一回の健康診断結果に基づき、食事療法（糖尿食、減塩食、高脂血症食など）を行い、

健康管理に配慮する事ができた。

又、ヘルパーやデイサービスの職員との連携を通じて、日常生活では気づくことのできないケガ

や体調の変化に対応する事ができた。

(5) 介護保険対象の要支援・要介護の入居者に対しては、自立生活が維持できるように、介護保険制度を利用して、個々人にあった生活ができるよう支援する。

➡日々変化する入居者の状況を把握しながら、自立生活を維持するために必要な介護サービスを提案し、家族やケアマネージャーとの話し合いで連携を図り、実施（支援）することができた。

(6) 常に居室は、自主的に整理整頓をしてもらい、快適な生活を送ってもらえるよう援助する。

➡日常的な声かけや年二回の居室点検を通じて、居室の不具合を発見、修正することで快適な生活へ向けての支援ができた。

(7) 入居者の人格・人権を尊重し、ありのままを受け入れるよう努力し、入居者の相談に適切に対応しながら、精神的ケアに努める。

➡まずは入居者と信頼関係を築くことで、何でも相談していただける仲（環境）を作る。

又、毎日の会話や表情の中から“S O S”を早期に汲み取ることで、入居者の精神面の負担
軽減に努めた。

(8) 入居者からの日々の意見の受付、また定期的な入居者懇談会の開催等から、日常生活上でのニーズを把握し対応していく。また、苦情がある場合は、迅速且つ適切に解決するようにする。

➡日常生活上での入居者からの意見に対しては、意見箱の設置を行っており、懇談会やお話会などの際に話を十分に伺う機会を設け対応した。
また、個別的な事案に対しては居室訪問等でお話を伺う等の対応を行い、迅速に対応する
事ができた。

(9) 施設便りを発行し、地域・行政・関係機関に情報を発信する。

➡地域や関係機関へ出向き、パンフレットを基に内容を説明し、必要時（独居生活にお困りの際）
の対応が図れるようにした。
また、地域交流の一環として近隣の小学校から届いた年賀状に対し、入居者と職員で手書きの年賀状を作り手渡した。

(10) 職員は、毎月、職員会議や職員研修を行なうと共に各種研修会等に参加し、専門職としての
自己研鑽に努める。入居者や家族に対しては、専門的な立場から自覚を持ち、思いやり
を持って接する。

➡各種研修会への参加、専門誌等の熟読を行い専門職としての自己研鑽に努めた。
職員研修を通して、今必要な情報把握と入居者へ提供する情報の統一を図った。

(11) 常にリスクマネジメントに配慮し、早期の対応や予防的対応を重視する。また年二
回以上防災避難訓練(夜間想定・昼間想定)を行う。

➡年二回の防火避難訓練については、話し合いの場（入居者お話会）を設け、事前予習・
本番（避難訓練）後の反省会を行い、避難訓練の大切さを理解していただいた。
又、職員研修を通じてリスクマネジメントの分析を行い、危険個所の把握や入居者への
対応方法を統一することができた。

(12) 職員は業務上知り得た入居者及び家族の個人情報に関する守秘義務を遵守する。

➡業務内の申し送り、介護サービス事業者など関係各所に対する必要な情報提供以外は
守秘義務を遵守した。

(13) 職員は、経費節減の観点から、省エネ・節水等に努める。

➡館内照明の節電に努め温室時計設置を行い、エアコンの使用も極力必要時のみとし経費節減に努めた。